

海洋島

第5巻 第5号 (通巻42号)

東京都小笠原水産センター

2003年9月18日発行

〒100-2101 東京都小笠原村父島字清瀬

04998-2-2545

Fax. 04998-2-2546

父島で大発生したモズク

「前浜（大村海岸）にモズクが大発生しているらしい」といううわさが5月の初め、島の中に広がりました。小笠原諸島に生息する海藻類は本土と比較すると種類・量ともに貧弱で、海に行っても磯の香りがあまりしません。ですから、モズクのような食用になる海藻が大発生することは非常に珍しいことなのです。

5月末に分布調査をおこなったところ父島二見湾内の大村海岸（水深3～5mを中心）に広く生息しているのが確認されました。藻体の長さは20～30cmで太さは2～3mm、おもに死んだ枝サンゴの破片に付着しており、多いところでは一面モズクだらけで海底が見えないくらいでした（写真1）。



写真1 大村海岸で大発生したモズク

(2003年5月27日撮影)

同時に湾内の他の海岸を調査しましたが、モズクが生息していたのは大村海岸だけでした。モズクは6～7月を中心に大繁殖した後、藻体が切れ始め、8月末には根元が数cm残るのみとなってしまいました。ところでこのモズクいったい何モズクだったのでしょうか。モズク流通の大部分を扱っている沖縄

県漁連や沖縄県水産試験場の担当者に確認を取ったところ、「オキナワモズク」であろうとの返答がありました。また、このモズクの培養を行ったところオキナワモズク属*特有の菊花状の発生を示しました（写真2）。オキナワモズクは奄美大島を北限、西表島を南限とする南西諸島に分布し、水深5m以浅の沿岸域に繁茂する食用海藻です。

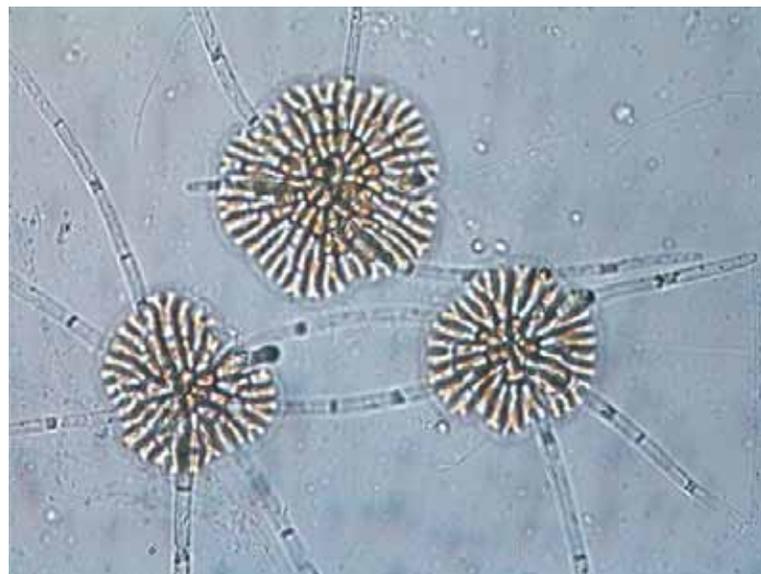


写真2 菊花状の発生を示したモズク

(着底から6日目)

それでは南西諸島に分布するオキナワモズクが、なぜ小笠原で発生したのでしょうか。その答えは今から20年前にあるのかもしれませんが。実は当センターでは当時沖縄からオキナワモズクを導入し、モズクの養殖研究を実施した経緯があるのです。もしかしたら当時の藻体が細々と生き延び、何らかの要因で成長に適した環境が整ったことで大発生したのかもしれません。（過去、大村海岸でのモズクの大発生は1997年にもおこっています）

*属とは、生物分類学上の一階級で、科の下で種の上の分類基準です。オキナワモズクの場合は、ナガマツモ科 - オキナワモズク属 - オキナワモズクとなります。